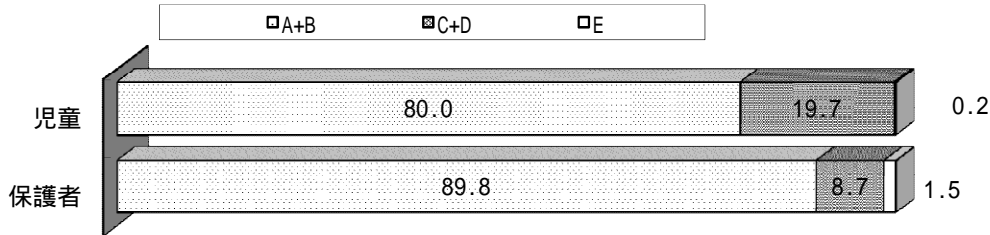


# 平成21年度用 学校教育自己診断 小学校（共通項目）

## 1. 学校の生活について

児童 学校へ行くのが楽しい。  
 保護者 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:無回答



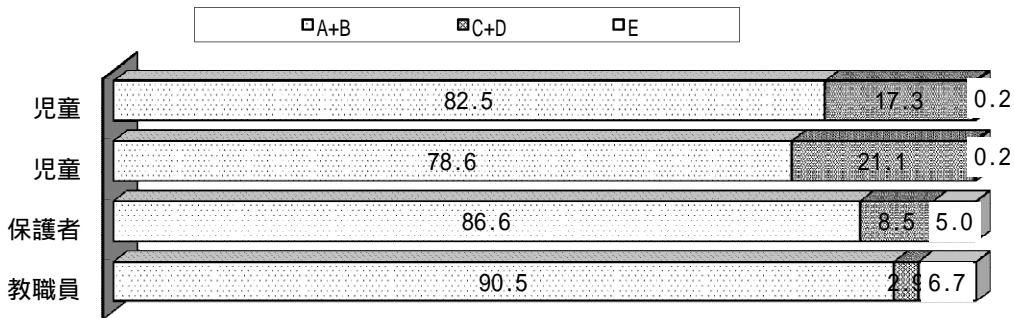
### <分析>

ここ5年間のアンケート結果を見る限りでは、多くの児童が学校へ行くことに魅力を感じ、学校へ行くことを楽しみにしている。保護者も同じように肯定的に捉えていることがわかる。なお、各学校のきめの細かい多様な取組みにより、昨年度に比べ児童の肯定的回答は4.6ポイント、保護者の肯定的回答は4.0ポイント増えている。

## 2. 「確かな学力」の育成について

児童 授業はわかりやすい。(各教科ごとについては、学校の判断で)  
 児童 外国語活動の時間は楽しい。  
 保護者 先生は授業がわかりやすいように工夫しているようだ。

教職員 学校では常にわかりやすい授業を目指して工夫改善を図っている。



### <分析>

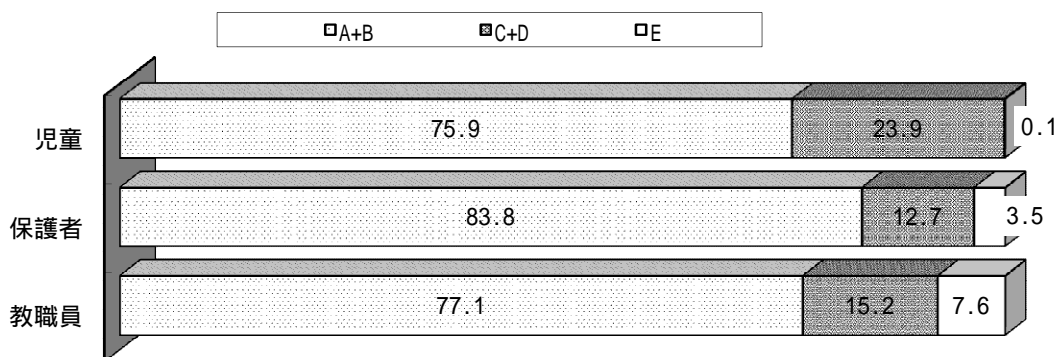
昨年度に比べ児童、保護者ともに肯定的な回答が10ポイント近く増えている。各学校ともに計画的な授業改善のための研究授業や若手教員の育成を行う等、取組の成果がアンケート結果に表れていると考える。今後も楽しくわかりやすい授業や英語活動の充実をめざし、少人数指導や習熟度別の授業改善を含め、学校全体で授業力向上のための研修等を充実させることが大切である。

### 3. 子どもたちに対する指導について

児童 自分がかんばったことを先生はほめてくれる。

保護者 先生は子どものことをよく理解してくれる。

教職員 この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた指導をおこなっている。



#### <分析>

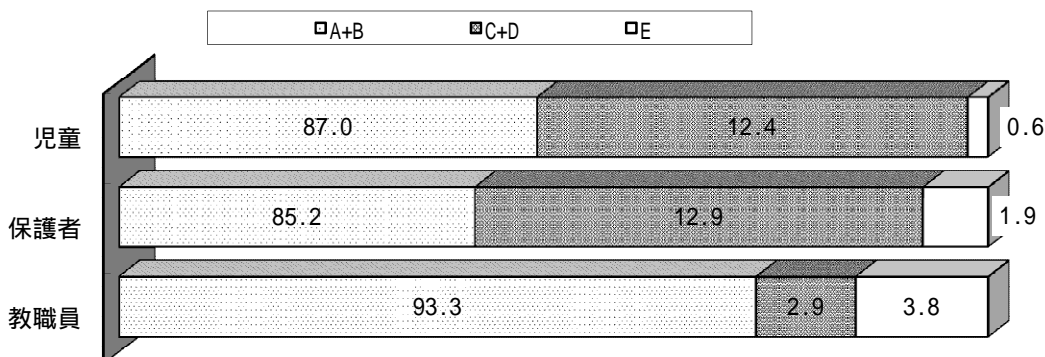
昨年度に比べ、児童の質問内容を「先生はよくほめる」から「頑張ったことをほめてくれる」に変更したことで、肯定的な回答の割合が30ポイント近く増えており、先生に認められていると感じている子どもが多いことがわかる。また、児童や保護者の認識と教職員の認識の差はなくなってきている。

### 4. 「心の教育」や規範意識の育成について

児童 人に対する思いやりやルールの大切さについて学校は教えてくれる。

保護者 子どもは人権の大切さや社会のルールについて分っていると思う。

教職員 学校は人権の大切さや社会のルールについて身につけるよう指導している。



#### <分析>

全体の9割近くの児童、保護者が肯定的な回答をしている。今までの人権教育の実践を基に、道徳教育の重要性に対する理解も高まり、推進するための研究授業への取り組み等も増えてきていると考える。今後も「道徳」の授業を学校教育活動の要として、より良い人間性や社会性の育成をめざした取り組みを充実させていくことが必要と考える。